

同窓会

の

チカラ

同窓会のための情報誌

2011

特集1 ● 新たな同窓会の姿を求めて

リレー連載 ● 私と同窓会

特集2 ● 「大人の国高祭」

・東京都立国立高等学校 70 周年事業

紹介 ● 同窓会活動紹介

・やらまいか魂、健在

静岡県立浜松商業高等学校

・上総の心意気

千葉県立大多喜高等学校

わが学び舎

・兵庫県立豊岡高等学校

ごあいさつ／ご案内

Our Proud

兵庫県立豊岡高等学校／達徳会館

旧兵庫県立豊岡尋常中学校本館（明治 29 年竣工／木造 2 階建／兵庫県指定重要有形文化財〔建造物〕）

Vol. 3

新たな同窓会の姿を求めて

城 和裕 + 勝見 鈴代 + 早川 淳 + 會田 昭一郎

都立高校同窓会の輪

東京都立石神井^{いしくい}高校同窓会が、従来の学校単位の同窓会活動の枠を超え、同窓会本来の新しい姿を追求すべく近隣の都立高校同窓会に交流を呼びかけたことに始まる。現在八校が参加、互いに活動の内容を紹介しあい、同窓会活動の発展と更なる次元への方向性を検討する研鑽の場を設けて活発に議論を重ねている。

同窓会の現状と問題点 同窓会帰属意識の希薄化

城 今日(二〇一〇年)最後の会合で、年末ということもあって三校四名の出席となりましたが、「都立高校同窓会の輪」について知りたいという要望が外部の方からありましたので、我々の活動を知っていただく良い機会だと考え、お集りいただきました。近年、同窓会の現状と意義についてさまざまな声も聞こえてきます。同窓会についてのお考えなどを忌憚なくお話し願えればと思います。

早川 同窓会活動と言いますが、具体的な内容に至ってはそれぞれ千差万別で、それが各学校の特色とも言えます。強いて「定義」するならば、同じ

高校で学んだ者が、卒業後も交流を続けてゆく際の土台と言えるでしょうし、同時に現在の母校に対しての何らかの支援活動を行う基盤ということになると思います。

會田 かつては卒業生は自動的に同窓会員になるのが、まあ一般的だったんですが、近年は入会承諾の書類をもらうよう東京都の指示がありまして、入会率が落ち込んでいる。個人情報保護ということで学校から生徒の電話番号なども教えてもらえないので、同窓会の事務局も勧誘ができません。

城 石神井の入会率は九〇%くらいありますが、傾向としてはおっしゃるような状況だと思えます。それで、こうした現状でいいのだろうか、という思いが強くなりまして、ウチの同窓会だけでは無理だけど、他校の同窓会と横の連携をとったら何らかの展望が開けるんじゃないかと考え、ご近所の同窓会に声をかけたのが「都立高校同窓会の輪」のそもそもの発端なんです。

會田 現在は八校ですが、これがもつと広がっていけば、なかなか面白いことが出来るように思いますし、思ってもみなかった展開が生まれる可能性を秘めていると思います。現状は同窓会誌の交換、顔を合わせたの情報交換などをしていますが、どちらの同窓会でも似たような問題があります。例えば

若年層の参加が少ない、会費納入率が低い、校内に同窓会室がない、というように。

勝見 そうした共通の問題に加え、各校固有の事情もありますから、一校単独で悩んでもまず問題解決には至りません。同窓会は学校そのものではありませんが、学校に深く根付いた組織です。先生や指導者、PTAは時とともに変わりますが同窓会組織は不動なんです。また同窓会が何かをしようとすれば、すぐに予算の問題に突き当たります。人と予算の問題をどう解決してゆくか、これも「都立高校同窓会の輪」を立ち上げた理由の一つです。

同窓会というものの再評価 人生をサポートする力の源として

會田 どのような組織でも、社会の中にあるわけですから、社会とのかかわり方、社会における関係性の構築、というのが重要になります。年齢的にも上下左右かわりなく、同窓会はこれが出てくるんですね。今、若い人たちの入会率が悪い。なんとなく同窓会というのは単なる親睦会だと思われている節があります。その要素は確かにありますが、同輩はもちろん、先輩後輩との間で、異業種交流の場でもありますが、会員になることには大きなメリットもあるんだ、ということアピール



左：東京都立石神井高等学校同窓会・副会長
勝見 鈴代（かつみ・すずよ）氏
中：東京都立立川高等学校同窓会前理事・現校歌祭委員
會田 昭一郎（あいだ・しょういちろう）氏
右：東京都立大泉高等学校同窓会・会長
早川 淳（はやかわ・じゅん）氏
下：東京都立石神井高等学校同窓会・会長
城 和裕（じょう・かずひろ）氏



すべきだと思っんですよね。

早川 大泉高校では「キャリア教室」というものを設けていまして、これは先輩が母校で授業をする、というものです。NHKでやっておりまして「ようこそ先輩」という番組に似た内容で、正規の授業として設定されています。結構人気があります、この実現に向けては同窓会も大きく協力しています。実際、社会で活躍している卒業生を探し授業を依頼するということが出来るのは、事実上同窓会だけなんです。

また「特別授業」というものもありまして、これは正規の授業ではないんですが、最先端のハイテク工場や企業や研究所に、少人数ではありますが見学に行く。そして現場というものを高校生の目で見ると、これは単なる見学よりもっと密度の濃い「授業」なんです。生徒にあたる刺激は非常に大きい。これも同窓会がサポートをしていきたい。ただし学校との問題があるので、クラブ活動の一環として行なわれるケースが多いですね。

勝見 学校と同窓会は、本来手を携えて行くべきなのにどうもそうでもない、むしろ対立的な雰囲気がある、という話はよく聞きます。石神井では年に二三回、教師との交流会を開いています。新年会や新たに着任した教師の歓迎会、三年生の教師の慰労会などです。

割り勘ですけど。こういうことでも関係はだいぶ変わりますね。いい方に。

城 同窓会は親睦会だというのは正しいとして、実際にはOB会などから部活の指導者を出したりもしています。まあ生徒や学校への援助ですね。現在までのところ、一般的には同窓会の盛衰は学校の先生次第というのが実態でしょう。同窓会としては援助できることは積極的にやって行きたいと考えています。それがスムーズに行かない現実には、多分どちらの同窓会も似たり寄ったりではないでしょうか。同窓会というものの本当の意味での「認知度」が低い。親や教師の無関心というのがその背景にあるわけです。

會田 城会長のおっしゃる通りですね。ところで同窓会というのはちよつと特殊な立ち位置でして、ビジネスライクにやればいいというものでもなく、さりどてどんぶり勘定でもありません。たとえば私どもの同窓会は海の家を持っていて、毎年一年生は全員合宿します。こういう施設は維持管理が大変で、単純に財務的な見方をすれば、処分すべきでしょうが、伝統を守っていくうえで大きな役割を果たしているから、学校も生徒も喜んでいから維持してゆくという選択をして、今、建て替えのための募金活動をしています。

早川 同窓会は応援団なんだから、せ

いざいこき使っていたら本望なんでしょうね。

大泉は中高一貫校でして、同窓会の目的は卒業生の親睦と母校の発展に寄与すること、となっております。具体的には母校支援金の供出ですね。周年事業や校舎建築などにですが、これとは別に人材としてのOBの能力を活かして、たとえば「英語漬け合宿」なんかを開いていく予定です。

同窓会の果たす役割の変化 地域とともに生きるという形

勝見 先ほども出ました、同窓会に入ることの手続きの問題があります。これをもっと簡素化して、気軽に仲間に入ることでできるシステムにすべきです。あと、同窓会員相互の情報交換や親睦をどのように図って行くかが大切ですね。在校生の支援も含めて、もっと互いに協力しあう場を作り上げることができれば、同窓会の意義はかなり高まるでしょう。

會田 ただ、実際に顔を合わせる場所もないから、周年事業のように、かなり具体的なテーマ・目的がないと集まりにくいというところはあると思います。ですが、同窓会専用の会館のようなものを用意できるかといえ、これまた難しい。本当はそうした恒久的施設があつて、事務局機能なんかも備えてあ

- ▶城 和裕氏は、創業 65 年の株式会社せいとうの代表取締役。浜松町、中野、日本橋、大手町、青山などでレストランを経営している。
- ▶勝見 鈴代氏は、東京都内の外資系ホテルで企画を担当する業界のベテラン。人と会うことの重要さを体験し、それをさまざまな場面で後輩たちに伝えてきた。
- ▶會田 昭一郎氏は、国民生活センターに勤務後、自身の舌ガンの闘病経験から、退職後に「市民のためのがん治療の会」を設立、代表となる。NHK がんサポートキャンペーンの番組出演や、新聞、雑誌への寄稿、関係各省庁への提言などを積極的に行っている。
- ▶早川 淳氏は、東京・北区の早川住建株式会社の代表取締役。さまざまなボランティア活動に従事してきた。

れば、先ほど来お話に出ている「支援活動」なんかも、より積極的に発展的に展開できると思います。

早川 同窓会は、もちろん特定の学校の卒業生で構成されていますが、学校や学校生活というものは、地域社会と無関係ではありません。実際に学校が地域社会にオープンになるのは「文化祭」くらいだろうと思いますが、これをもっと拡大して行く形はないものだろうかとも思うんですね。

城 先輩後輩の関係から、地域との関係の構築へと進むのは、ある種、理想だと思います。同窓会というのは本質的に閉じた社会ですよね。でも、同窓会が発展的に進めば、やがて地域とのそうした交流や相互関係が発生するというのは必然でもあるんじゃないでしょうか。

大泉高校が実施している「ようこそ先輩」にしても、卒業生が教師役をして、社会からの風を教室に持ち込むことで、「教育の場」という何となく閉じた空間が少し立体的になる。でもそれをやるのは近所のお百姓さんでも良い訳です。まあ、そこまで踏み込むのは言い過ぎかもしれませんが、それは第一に教育の受け持ち領域ですから、僭越だと言われるかもしれません。けれどもそれを実現する過程では、同窓会はそれなりの協力ができると思うの

です。

會田 結局、現時点では同窓会と学校との関係をうまく築いて行くことから新しい同窓会の展望が開けてくるような気がしますね。

同窓会のこれから

早川 各同窓会には、それぞれにいろいろな問題があります。学校のカラーがあるように、同窓会にも性格がありますから、こうなっていく、という確かなものは当然ありません。ですからこうすべきだ、というセオリーのようなものはないんです。

城 学校が同窓会に対してどういうスタンスでいるか、というのもあります。同窓会はそれ自体で成り立っているんじゃないくて、学校やPTAと不即不離の関係にあります。だから同窓会だけが突出して何かを行うことはできない。必ず学校などと密接な関係を維持しなくちゃならないんです。

勝見 今の時代は、同窓会というと、学校時代の仲良しが集まって、いわゆる親睦会を催す会合のことを指していると思います。もちろんそれが基本なんですけれど、あまりに小さな単位でものを考えている気がしますね。もっと広い視点というか、社会とのかかわりのような発想が少ない。

會田 まあ同窓会とはなんぞや、という間があることは事実です。

一般的な考えとしては、まず学校という基軸があつて、それに付随する団体として同窓会があるということになっています。だから学校という縛りからは逃れられない、と思われている。確かにそうでしょう。でも、その考えを一旦捨てて、もっと新しい視点から考えてみることも必要ではないかと思えます。同窓会も社会的存在ですから、学校、PTAとの関係だけでなく、これからはステークホルダーとして町内会なども含めた新しい関係の構築が必要なのではないでしょうか。

私どもも一般社団法人として活動しておりますが、ますます公益性、社会貢献などを視野に入れた活動が重要になってくるのではないのでしょうか。

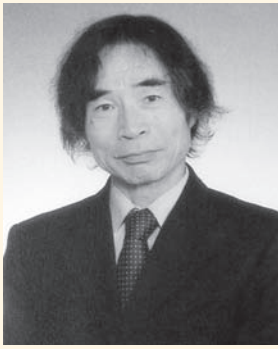
早川 情報化社会の現在、価値の多様化も進行しています。当然のことながら同窓会も本来の目的を見失わず、しかし変化を遂げて行かなければならないでしょうね。

城 ことは同窓会の存続ということだけではなく、同窓会の果してきた社会的役割が失われてしまうこと。それを憂えた有志の集りが「都立高校同窓会の輪」です。まだ始まったばかりですが、新たな魅力ある同窓会実現に向けて邁進して参りましょう。 □

私と同窓会

熊谷 保孝

「個人情報保護法」は社会を破壊し活力を奪う



瀧川学園同窓会・副会長
熊谷 保孝（くまがい・やすたか）氏

一、伝統的日本社会

先日、九十八歳になる私の母が死亡した。私たちの家に来ることを勧めていたが、山奥の村で一人暮らしをする方が気楽でよいといって断りつづけていた。これができたのも近隣の方々の温かい人情が生きていたからであった。これこそ日本の伝統的な共同体の姿であった。

二、個人主義の限界

敗戦以後GHQは、日本の伝統を否定して個人主義思想を導入した。個人主義とは民主主義を根底で支える思想ではあるが、問題がないとはいえない。

あるアメリカの企業が倒産の危機に直面した。その企業は日本の企業に再建を依頼した。日本の企業は社長を送り込んで再建に着手した。まず、社員同士、「お互いにコーヒーを入れあいましょう」とすすめあうことにした。上役が先に出勤していれば、部下にコーヒーを入れてやる。部下は上役に「コーヒーはいかがですか」と尋ねる。社員相互間でも、自分が飲みたいときは、周りのものにすすめてみる。これだけのことで、この企業に活力が生まれ、業績がたちまち回復したというのである。

アメリカの社会は個人主義を基本としている。コーヒーが飲みたいときは自分ひとりで飲めばよい。この、いわゆるドライな考え方が徹底すると、人間相互の温かいつながりがなくなり、やがて人間不信を起し、生きがいの喪失や活力の低下に繋がって行く。

「人」とは文字通り、支えあうことによって生きて行けるのであって、単独では生きて行けない。アリストテレスのいう通り、「本性的に社会的動物」である。

したがって、「お互いにコーヒーを入れあう」ことによって、失いつつあった人間の本来性を目覚めさせたのである。そこに活力が復活したのである。

三、「個人情報保護法」は「絆」を遮断する

近ごろは各種の団体が名簿を廃止していると聞く。個人情報保護法に鑑みられた措置である。名簿の大切な意義はその団体への帰属意識を持たせる役割を果たしていることであり、「共同体」を形成することである。

私は「同窓会」の世話をさせていただいているが、同窓会の共同体としての役割を高く評価している。全くの初対面であったとしても、同窓生であるということが分かっただけで、年齢な

どに関わりなく、急に親しくなり、商談も成立してしまうということは、日常よく聞くところである。

「同じ釜の飯を食った仲」という言葉がある。同窓会は「同じ釜」ならぬ「同じ学び舎で学んだ」という意識によって、親密さを醸成しているのである。その醸成に大きな役割を果たしているのが「同窓会名簿」である。同じ名簿に掲載されることによって、同窓生としての「絆」を、より確実なものにする役割がある。

ところが、個人情報保護法は、これら「絆」を構成する人びとを匿名化・アトム化することによって、信頼関係で成り立っている共同体を根底から揺るがせ、やがて人びとの活力さえも奪おうとしているのである。個人情報保護法を早急に見直す必要があるのではないか。

筆者プロフィール

昭和21年兵庫県生まれ。昭和39年滝川高等学校卒業。昭和43年國學院大學文学部史学科卒業。昭和49年國學院大學大学院文学研究科博士課程修了。日本学術振興会奨励研究員。武庫川女子短期大学非常勤講師（～昭和54年）。昭和54年より滝川高等学校教諭、現在に至る（この間、神戸学院女子短期大学非常勤講師、兵庫県立姫路短期大学非常勤講師）。平成20年に國學院大學から博士（神道学）号を授与される。著書に『日本上代の生死観』（溪水社）など。

2

「大人の国高祭」

東京都立国立高等学校同窓会

東京都立国立高等学校同窓会が
創立 70 周年事業の一環として開催した「大人の国高祭」
その企画から実施までの汗と涙の舞台裏

開催の発端と制作の経緯
そして「祭の後」

二〇一〇年、国立高校は創立七十周年を迎えました。この記念すべき年に、学校の行事とは別に、同窓会として何かお祝いをしたいという声が上がリ、当時杉並区長をしていた同窓会の山田会長の「若い人も参加しやすい七十周年記念大同窓会をやりたい」という希望が次第にふくらんで、いっそテレビコマーシャルを流そうということになったんですね。

二〇〇九年の六月に幹事会の賛同を得て、広告代理店に勤めているOBに企画を持ち込み、国高出身のプロのスタッフが集まって検討を重ね、「OB・OGによる、OB・OGのための、大人の国高祭」企画が誕生します。そして同窓会総会の承認を経てCM撮影を開始、テレビCM告知のため新聞の全面広告もしようということになり、前代未聞の「同窓会の新聞広告」が実現したわけです。

CM制作や会場設営、また放映枠や新聞スペースなどの確保は専門家である電通に依頼し、周辺のこまごました作業については、卒業生で現在大学生のボランティアが熱心に協力してくれました。

しかしCM制作も新聞広告も大変な

700人の同窓生で会場はにぎわった





東京都立国立高等学校同窓会
<http://www.kunikou.jp>
 〒 181-0013 三鷹市下連雀 3-45-15 島田ビル
 TEL 0422-72-0350
 E-mail : staff@kunikou.jp



東京都立国立高等学校同窓会・事務局長
 柴沼 君暁（しばぬま・きみあき）氏

費用がかかります。これには千葉県館山市にあった海浜寮「富浦橘寮」の売却資金が充てられました。利用者も少なく建物も老朽化して存続が困難と判断された物件です。

多くの元国高生の尽力のお陰で、いよいよ十一月六日、新宿のハイアットリージェンシー東京で「大人の国高祭」が開催されました。イベントそのものは大盛況のうちに無事終了しましたが、募集人数七百人のところに千七百人を超える応募があり、結果として千人もの方々にお断りの手紙を出さざるを得なかったことは、同窓会として誠に断腸の思いでありました。

「国高祭」は、いわゆる文化祭と体育祭、後夜祭を合わせた、国高最大のイベントです。国高生および卒業生にとって「国高祭」という言葉が持つ響きは青春そのものであり、参加することには大きな喜びを感じる創造的な空間でもあります。その国高生の精神が「大人の国高祭」を通じて今なお脈々と流れていることを確認できたことは素晴らしい経験でした。その後、今回参加できなかったOB・OGに、自ら企画して「大人の国高祭2」を開催しようという動きもあります。破天荒と評された「大人の国高祭」がもたらしたものは、国高同窓会員にとって想像以上に大きかったと実感しています。

●「大人の大人の国高祭」実施内容

2010年8月15日 朝日新聞全国版全面広告
 2010年8月23日 TVCM オン・エア
 2010年11月6日 実施
 於・新宿/ハイアットリージェンシー東京

●参加応募者

19-20代	463人	60代	180人
30代	313人	70代	138人
40代	364人	80代	16人
50代	297人	合計	1771人

今回の60歳未満の申込者は81%
 それ以前の3年間の60歳未満申込者（＝参加者）は6～12%

●内容

かつてない文化祭形式の大同窓会／三宅久之氏特別講演／ジャズピアニストの大西順子さんのステージ／美術家・工芸家の作品を展示する「国高ギャラリー」／OB・OGの著作を集めた「国高書店」／70年分の「国高卒業アルバムライブラリー」／人脈・交流を深める「大名刺交換会」

「大人の国高祭 告知 お呼び出し篇」と題された30秒のCMはテレビ朝日系列の全国23局で放送された。また、同窓会CMの話題はAERA、週刊現代など週刊誌他、さまざまなメディアに記事として取り上げられた。



朝日新聞全国版全面広告

CMの制作は大手広告代理店の電通。国高OBの俳優、六平直政（ムサカナオマサ）さんがCMキャラクターとして出演。制作スタッフには現在、CM業界で働いている国高OBも参加した。また新聞広告にはOBで政治評論家の三宅久之さんが登場している。

◀ TVCM 2010年8月23日 21:00～21:54
 テレビ朝日「たけしのTVタックル」内で放映

3

やらまいか魂、健在

静岡県立浜松商業高等学校同窓会

毎年 1200 人以上を集める「浜商 OBOG まつり」を開催。
 社会で活躍する OBOG と母校の繋がりを深め、
 卒業生の就職支援活動「鮭の会」を展開する。

浜商「鮭の会」シヤケ

浜商卒業生就職支援事業

浜松商業高等学校は遠州地方特有の《やらまいか精神》が満ち溢れています。毎年六月に開催される同窓会定期総会と卒業生を集めた「大人のための同窓会」は通常の同窓会とはひと味もふた味も違うユニークで魅力的な内容となっています。また学園祭では創立百周年を機にチャリティバザーを開催しています。このバザーの品物は同窓生からも寄付があり、それを生徒・先生・父兄が一体となって盛り上げ、地域の人々に大変喜ばれています。

更に昨年四月に発足しました就職支援事業・浜商「鮭の会」は本年一月八日(土)に企業懇談会を開催することができました。テレビの県内ニュースでは特集として約五分間紹介されました。新聞でも三社で紹介されました。毎年百五十人程の大学や短大に進学した卒業生に地元での就職を支援し、有能な人材を地元に着させ地域活性化に結びつけようと同窓会と学校関係者で奮闘中です。

浜商同窓会副幹事長

佐口 丈夫司 (さぐち・じょうじ)

浜商「鮭の会」就職支援システム

⑤ 母校で企業との懇談会



浜商「鮭の会」ホームページ

① 求人情報

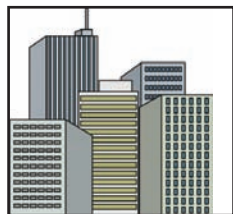
② 閲覧

③ 応募

④ 面接



浜商 OB・OG



企業・事務所

浜商 OB・OG と企業を結ぶ

浜商の卒業生(大学3年、短大、専門学校1年等)向けに、求人情報の「鮭の会」のホームページを立ち上げ、支援企業の情報を掲載します。卒業生はその求人情報をパソコンで見ることができ、興味ある企業に直接電話で連絡することができます。また、年に1回、母校で企業との懇談会を行なう予定になっています。



浜商「鮭の会」のホームページを立ち上げ、各企業からの求人情報を掲載することで、卒業生の静岡県西部地域への就職を支援するとともに、OB関連企業の求人活動を支援する。結果として、有用な若者が定着することとなり地域の活性化に結びつけていく。

静岡新聞 2010年11月13日・夕刊/ホームページの運用に向けて話し合う浜松商業高校職員と同窓会担当者。



▲浜商の正面にあるシュロの大木。
創立以来の100年を見守ってきた自慢のシンボルです。

静岡県立浜松商業高等学校同窓会
<http://hamasho-obog.org/>
 〒432-8004 浜松市中区文丘町 4-11
 TEL 053-471-3351

浜商OB・OGまつり

『浜商同窓会』には指針があります。

- 一、社会から親しまれ信頼される同窓会
- 二、母校の教育の振興に努める同窓会
- 三、楽しい同窓会
- 四、団結する同窓会

この同窓会の指針を具現化したのが『浜商OB・OGまつり』です。

数え年五十歳と卒業十年目の二十八歳の卒業生が幹事年次となつて毎年盛大に行われています。前年の『OB・OGまつり』が終了した時点から次年度幹事への引継ぎが行われますが、すでに二年前から、OB・OGだけでなく地域の皆様に参加していただける行事として作り上げていくことが方針になっています。また地元ホテルの一室を一年間貸切つて事務局として活動する年次も多く、この一年間五十歳と二十八歳が力を合わせることで絆ができ、同窓会意識が高まることで次の世代への浜商魂の継承が行われていきます。

- 2011年度 浜商 OB・OG祭り／プログラム**
- 開催日時* 2011年6月19日
13:00～
 - 会場* 〒432-8507
静岡県浜松市中区東伊場 1-3-1
グランドホテル浜松・鳳の間
 - メニュー
 - ★同窓会定期総会
 - ★祝典演奏・演舞
(浜商吹奏楽部・応援団)
 - ★経済講演会
(三宅久之氏)
 - ★イリュージョンマジックショー
(ルミエル・デュ・ソレイユ)
 - ★懇親会 まねだ聖子ライブショー
(まねだ聖子)



毎年、千二百人以上の参加者がいることでも『OB・OGまつり』の楽しさや地元での評価の高さがうかがえるのではないのでしょうか。
 今年も、楽しい『OB・OGまつり』の準備が着々と進んでいます。■

かずさ 上総の心意気

千葉県立大多喜高等学校同窓会

地域に学び、地域とともに生きる



千葉県立大多喜高等学校

<http://www.chiba-c.ed.jp/otaki-h/>

〒 298-0216 千葉県夷隅郡大多喜町大多喜 481

TEL 0470-82-2621 FAX 0470-82-4980

地域とともにを合言葉に

千葉県立大多喜高等学校同窓会は、総会の下に大多喜町を始めとして千葉市、茂原市など多くの支部を持ち、それぞれに独自の活動をしています。

中でも「地元」大多喜支部では「地域とともに」を合言葉に、通常の同窓会活動の他に、在校生ともども地域への貢献を具体的な形で実践する運動を推進、とりわけ地域住民の貴重な交通移動手段である「いすみ鉄道」のサポーターとして、幾つかの支援活動を行なっています。

第三セクターである「いすみ鉄道」(旧国鉄・木原線)は、沿線人口の減少に伴う利用者数の低下によって厳しい経営環境におかれています。しかし地域住民、特に通学者の利便性を考えれば、鉄道の存亡は地域の生活に直結する大問題でもあります。こうした現実を前に、「いすみ鉄道」はもちろん大多喜町の関係者はさまざまな支援体制を組み、町ぐるみで生活に不可欠な「足」の確保につとめています。

沿線唯一の高等学校である大多喜高等学校と同窓会では、具体的な取組みとして「いすみ鉄道友の会」のボランティア活動に参加し、在校生は沿

線の菜の花の種まきを、同窓会では沿線の草刈りなどを行なっています。またこれに加えて「いすみ鉄道サポーター」として、全卒業生に向けて同鉄道に対する寄付を呼びかけています。

かつてお世話になり、現在通学する生徒の主要な交通手段である「いすみ鉄道」を守るために、大多喜高等学校同窓会は、地域とともに協力・応援しています。



▲第三セクター「いすみ鉄道」は大多喜高生の大切な足。

春の桜が美しい大多喜高等学校
奥は大多喜城 (千葉県立中央博物館・大多喜城分館)

県立大多喜高等学校の、平成 19 年度魅力ある高等学校づくりチャレンジ支援事業「大高生の足『いすみ鉄道』」をとおして郷土愛を育むは、その内容と成果により平成 20 年 3 月 (2008) 千葉県教育庁から表彰されました。また長年にわたる地道な「いすみ鉄道」支援活動に対し、子どもや若者の優れた自立支援教育活動を顕彰する 2010 千葉教育大賞 (千葉日报社主催) を受賞しました。

●いすみ鉄道支援の寄付活動概要

- 実施・2008 年より年一回、夏に実施
- 金額・任意
- 内容・振込用紙を同窓会報に同封して会員に送付。寄付金はいすみ鉄道に直接振り込まれます。金銭授受に同窓会は関与いたしません。





(社) 達徳会

<http://www.tattokukai.jp/>

〒 668-0042 兵庫県豊岡市京町 12-91

兵庫県立豊岡高等学校内

TEL/FAX 0796-23-1290

わが学び舎

社団法人 達徳会 (兵庫県立豊岡高等学校同窓会)

伝統を生かし、個性を重視する教育で、飛躍する豊高



▲現在の兵庫県立豊岡高等学校正門

兵庫県立豊岡高等学校は、明治二十九年（一八九六年）四月、兵庫県豊岡尋常中学校として設立され、昭和二十三年（一九四八年）九月に兵庫県立豊岡西高等学校（旧兵庫県立高等女学校）と統合し兵庫県立豊岡高等学校となりました。創設以来百十五年、兵庫県では神戸高等学校とならび二番目に古い歴史を誇ります。

卒業生には作家・山田風太郎氏、政治家・佐々木良作氏など、各界の著名人を多く輩出しています。また世界的冒険家として数々の偉業を達成した植村直己氏も「豊高」の卒業生です。

「豊高」の基本精神は「伝統を生かし、個性を重視する教育で、飛躍する豊高」であることに在り、また「教育綱領」の象徴として、

真理 正義 敬愛 自律 実践

の五つの言葉を右に刻み、日々これを眺め、心を新たにして学業に勤しむことを旨としています。■

表紙写真・解説

兵庫県立豊岡高等学校／
達徳会館（たつとくかいかん）

兵庫県立豊岡高等学校及び旧制豊岡中学校の前身である旧兵庫県豊岡尋常中学校本館として明治二十九年に建立されたもので、創建当初の校舎で現在まで残る唯一の建物であり現存する数少ない明治期の擬洋風官公庁建築のひとつである。現在の位置に移転したのは昭和十六年（一九四一年）十月の校舎改築時。危うく公売されるところを豊岡高校の同窓会である達徳会が譲り受け、以後『達徳会館』と呼ばれるようになった。平成二十年三月に兵庫県指定重要有形文化財（建造物）に指定される。



▲昭和40年頃の校舎

社団法人 達徳会（たつとくかい）

社団法人達徳会は、旧制豊岡中学校、豊岡高等女学校、豊岡高等学校の卒業生が会員です。

兵庫県立豊岡高等学校は、明治二十九年四月に、兵庫県豊岡尋常中学校として設立され、明治三十四年（一九〇一年）四月、兵庫県立豊岡中学校と改称しました。

戦後の昭和二十三年四月、兵庫県立豊岡東高等学校と校名変更。また同年九月、兵庫県立豊岡西高等学校（旧兵庫県立高等女学校）と統合し、現在に続く兵庫県立豊岡高等学校となりました。

このような経緯から、達徳会は、三つの学校の同窓会を兼ねています。■

ごあいさつ

福田 裕一

同窓会のための情報誌『同窓会のチカラ』を
リニューアルするにあたって



株式会社サラト・代表取締役
福田 裕一（ふくだ・ゆういち）

創業以来三十数年、弊社は一貫して全国の同窓会名簿制作のお手伝いを続け参りました。現在では名簿制作のみならず、同窓会に関わる様々な活動を支援する業務にも取り組んでおります。同窓会は、言うまでもなく同じ学び舎で学んだ朋友の集まりであり、在学時の思い出を語り合う場としてだけではなく、実社会におけるさまざまな意味での貴重な情報源でもあります。しかし近年では同窓会の意味や意義が、以前ほどの重みをもって受けとめられていないようにも見えます。

これはここ十年あまりのコミュニケーション手段の発達と、それに伴う社会構造の変化、更にはそれらによる価値観の多様化に原因があるように感じます。一見すると、価値や価値観の多様化は選択の自由の拡大のように映ります。しかしその一方で、自らの座標を失いつつあるような危うさも認めることができると思われるのです。

私たちはこうした現状を憂い、もう一度原点に立ち返って、同窓会本来の意味と大切さをお伝えしたく小誌を全面的にリニューアルいたしました。そして今後も同窓会にとってより有益な情報誌になるよう作り上げて参りたいと考えております。小誌が、同窓会の未来を考える上で、少しでもお役に立てば幸いです。

同窓会アイテム

懐かしの校舎や石碑、校歌や校訓などがクリスタルガラスの中に浮かび上がるグッズです。キーホルダーやペーパーウェイト、置物として、また書齋のルーペとしてお使い下さい。周年事業の一環として人気があります。



● 世代を超えてみんなから愛される「リカちゃん」が母校の生徒に大変身。株式会社タカラトミーとのタイアップにより、母校制服オリジナルリカちゃんが発売されました。親から子へ、子から孫へ、母校の思い出と伝統を次世代に受け継ぐ、そんな母校の「制服オリジナルリカちゃん」を作ってみませんか？



© TOMY

ユニーク同窓会大募集

● ユニークな同窓会をご紹介ください。自薦他薦いずれも大歓迎。ちよつと変わった同窓会活動の取組みや内容、また地域とのかかわりや、在校生との交流などなど。本号で紹介した記事はそのほんの一例です。規模の大小は問いません。

● また本誌の表紙の写真も募集しております。母校の自慢、あるいは町の自慢、それを見れば卒業生なら誰でも懐かしさを覚える風景や建物、またシンボリックなものなどです。

● アプリル・ポイントを簡単にまとめてメールにてお送りいただければ当方よりご連絡いたします。活発な同窓会活動のために、直接間接に役立つ有益な情報をお待ちしております。

同窓会のチカラ 2011年号 / Vol.3

編集・発行 株式会社サラト
本社・〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172
TEL 0120-138-000 ● FAX 0120-917-523
東京支社・〒101-0021 東京都千代田区外神田5-2-3
JR 外神田ビル6F
TEL 0120-03-6381 ● FAX 03-3832-6389
E-mail eigyo@salat.co.jp
URL : <http://www.salat.co.jp>

SALAT
Salat Corporation